

# 国際規格の動向—国際会議に出席して—

## ISO/TC156(金属及び合金の腐食)アメリカ・ヒューストン国際会議

須賀茂雄

2014年5月26日から30日までヒューストン(アメリカ)で、10カ国約35名が参加し開催された。WG7(腐食促進試験)は中国・チェコ・フランス・ドイツ・スウェーデン・英国・米国・日本の8カ国19名が参加した。以下が決議事項である。

(1) Convenerが、スウェーデンのMs. Adeline Flogardから同国の Mr. Johan Tidbladに替わり、Vice-convenerとして須賀となる事が承認された。

(2) ISO9227(塩水噴霧試験方法)は、審議の結果、PLが文書をまとめWG7内部での内容確認後、CD回送する。

(3) ISO 16701(温湿度制御下での間歇塩水スプレーによる複合サイクル試験方法)はFDISがDisapprovedとなり、PLがスウェーデンのMs. Adeline Flogardから同国のMr. Mats Stromとなった。FDISでの内容が不十分な為、とりあえず発行済のISO 16701に文書上の文言のみの改正とし、同時にReplacementとすべき新提案を次回までにPLが提出する。

(4) ISO 21207(塩水噴霧・ガス・乾燥の複合サイクル試験方法)は、中国のコメントを元にPL(中国)がMinor RevisionとしてFDIS回送する。

(5) 新たにフランスからISO/TC2(締結用部品)で発行しているISO 10683(ファスナー非電気亜鉛フレーク被覆)のAnnexをISO 9227のAnnexに含めてほしいという提案があった。含めるか否かを検討する為に、関連文書をWG7のメンバーに送る。

(6) ISO 11474(間歇塩水スプレーによる屋外暴露試験方法)は、Systematic Review時にスウェーデンが新規提案する。

(7) ISO 10062(ガス腐食試験方法)とISO 16151(酸性雨複合サイクル試験方法)は、WG7のメンバーにより、よく使用されているという事が確認された。

(8) JWG(Joint Working group)を作る必要があるかどうか、JWGの参加予定のISO/TC156(金属及び

合金の腐食)/WG7(腐食促進試験)、ISO/TC35(ペイント及びワニス)/SC9(塗料の一般試験方法)、ISO/TC35(ペイント及びワニス)/SC14(鋼構造物の塗装仕様)、ISO/TC107(金属及び無機質皮膜)/SC7(金属めっき腐食試験)、CEN/TC262(金属及び無機質皮膜)の代表者が集まり打合せをする作業をConvenerが進める。

WG7への参加者が多く、活発な議論が交わされた。今回の会議では開催場所がNACE\*である事もあり、米国の参加者が多く、中国からも若い人が多く参加していた。

日本からの参加者も7名と一番多く、日本の貢献度の高い事を再認識した。

\*NACE: National Association of Corrosion Engineers



ISO/TC156会議風景

## ISO/TC35 (ペイント及びワニス)ドイツ・ベルリン国際会議

須賀茂雄

2014年6月2日から6日までベルリン(ドイツ)で開催された。SC9/WG31(硬化後の性能試験)にはオランダ・アメリカ・ドイツ・スイス・イギリス・インド・日本の7カ国17名が参加し開催された。以下に当社に関する事項について報告する。

(1)ISO 11997-1(複合サイクル試験)は、6.4のサイクルB及びサイクルCにおける乾燥試験への移行時間が45分から70分に変更され、DIS回送される予定。

(2)ISO 9227(塩水噴霧試験)について、須賀がTC156/WG7における改正審議状況を説明した。

(3)ISO 15110(酸性液を含む人工暴露)は、ISO 29664(プラスチック-酸性液を含む人工暴露)との関係を整理し、投票前にアナウンスされる。

(4)須賀が写像性についてプレゼンテーションを行った結果、反射に加え透過を含めて、NWIPとWDを日本が提出する事となった。

(5)日本提案のISO 6270-3(回転式の湿潤試験)は、NWIPとして提出が了承され、会議中にあった質問に対し日本が回答する事となった。

(6)ISO 2813(光沢)及びISO 13803(反射ヘーズ)は、FDIS回送中。

(7)ISO 7784-1,-2(テーバー摩耗)、ISO 7784-3(往復平面摩耗)は現在改正DIS回送中(投票期限-1,-2は10月22日、-3は9月24日)。

6月5日のSC9全体の会議は、オランダ・アメリカ・ドイツ・スイス・イギリス・日本の6カ国23名が参加し開催された。ISO/TC107(金属及び無機質皮膜)/SC7(金属めっき腐食試験)、ISO/TC156(金属及び合金の腐食)/WG7(腐食促進試験)とのLiaisonが確認されたが、Secretaryが全てのLiaisonを再度調べる事となった。



ISO/TC35 日本メンバ

### ISO/TC61 (プラスチック) 情報

日本提案 (PL須賀茂雄) の写像性測定方法:ISO 17221 Plastics -- Determination of image clarity (degree of sharpness of reflected or transmitted image)が2014年4月29日に発行されました。写像性測定の繰り返し精度(Repeatability)及び試験機関間の測定誤差(Reproducibility)は、当社製写像性測定器(ICM-1T型)を用いたデータが掲載されています。